



# 園だより

第2号

平成30年4月25日  
駿河台大学第一幼稚園  
園長 田所 恒子

## 大きくなあれ！

「こどもの日」を前に園庭には、青空の下、歴代の年長児が作ったたくさんの鯉のぼりが風に吹かれて元気に泳いでいます。その様子は圧巻で、特に初めて群れをなす鯉のぼりを見た年少児は、思わず鯉のぼりに向かって走って行き手を伸ばしています。間もなく、今年のさくら組・ゆり組が友達と一緒に作った鯉のぼりも仲間入りします。楽しみです。

さて、進級・入園と新しい幼稚園生活が始まって2週間あまりですが、この時期のお子様たちの成長には、著しいものがあります。

年少児には、初めての幼稚園生活や大好きなお母様と離れることに不安を感じているお子様も見られましたが、日に日に安定して幼稚園生活を送る姿が増えてきました。お母様の代わりにやさしい先生がいることや、友達と一緒におやつを食べたらお母様がお迎えに来てくださるという生活の流れも分かってきて、安心して幼稚園生活を送れるようになってきました。水道で手洗い・うがいをし、タオルを出すなど身の回りの始末も出来ることがとても多くなってきました。保育室でままごとや粘土で遊んだり、園庭に出て、するがだいランドや砂場で遊んだり、年中児や年長児の遊びを真似たりととても楽しそうです。5月の連休明けから、お弁当や給食が始まり保育時間が長くなります。連休明けには、少し戻りが出てお母様が恋しくなってしまうお子様もでてくるかも知れませんが、それを乗り越えることにより、また一つ大きく成長することでしょう。

年中児は、初めてのクラス替えがありました。進級当初、昨年の担任やクラスの友達が気になる姿も見られました。しかし、年少児の時にクラスを越えて共に遊んだり、生活したりする機会を作ってきたためでしょう、すぐに新しい環境に慣れることが出来ました。ごっこ遊びや、長縄跳び、しっぽ取りなどを友達と楽しむ姿が見られます。長縄跳びは、昨年の年中児も今の時期楽しんでいた遊びです。年中児が順番に長縄を回して遊んでいると、その楽しそうな姿に誘われたのでしょうか。突然、年少児が縄を跳ぼうと入ってきました。一瞬、年中児たちは驚いた様でしたが、すぐに「あのね、こっち、ここに並ぶの。」と列の後ろに年少児を連れて行きました。驚いたことに、年少児はちゃんと順番を守りました。そしてもう一つ驚いたことに、年中児は小さい子どもが跳びやすい“へび”となるよう縄を揺すってあげていたのです。自分も年少児の時にしてもらった経験からでしょう。お子様たちは、体験を通して学び、大きくなります。

年長児は、当番活動や園庭の片付け、誕生会の司会など、最高学年として幼稚園のみんなのために働くという体験をします。今年度から、年少児の発育測定の手伝いもすることになりました。年長組のお兄さん、お姉さんにポロシャツのボタンを外してもらったり、ハイソックスを脱がせてもらったりしながら年少児は皆うれしそうです。年少組の担任にも「さすが大きい組さん。助かったわ。ありがとう。」と言われ、年長児はとてもうれしそうで、満足気でした。このような体験は、年長者としての自覚を芽生えさせるとともに、自己有用感や自信など生きていく上でとても重要な力を育みます。今回は半数の年長児でしたので、次回は残りの年長児にも大きくなる体験をしてもらいます。

5月5日「こどもの日」は、祝日法第2条に「こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する。」とあります。大切なお子様をお預かりする幼稚園として、お子様たちが健やかに成長し大きくなるために、私たち大人はどうあったらよいかを改めて考える機会としたいと思います。



たくさんの鯉のぼりにお子様たちの心が躍ります。



年少児のおやつは、園生活の流れの理解やみんなで昼食を食べる準備として大切です。



「大回し」や「郵便屋さん」「カレンダーマーチ」と長縄跳びのレパートリーは豊富です。



発育測定。年長児に手伝って(脱ぎ着させてもらって?) 年少児はとてもうれしそうです。